

2018 年度（平成 30 年度）事業報告書

公益社団法人 Sumita Scholarship Foundation, Cambodia

2018 年度(平成 30 年度)の重点事項の成果

公益社団法人 Sumita Scholarship Foundation, Cambodia (以下 SSFC)は平成30年3月8日に公益認定を取得し、一般社団法人から公益社団法人に移行した(平成 29 年 4 月 19 日に一般社団法人として設立)。

本年は設立 2 年目であり、就学支援、教育環境の改善支援とも、充実した支援活動が行え、手応えを感じた。

- ① 特にアライン・ランサイ中学校で実践している先生の指導力の向上支援「生徒によくわかる授業の仕方」の指導では、シェムリアップ州教育長・教育局の協力を得て、授業発表会を2018年7月6日(金)に行った。2018年11月からはスレイ・ビボケイ中学校他1小学校でも指導を始めた。
- ② 就学支援も新規にスレイ・ビボケイ中学校に始めた。継続支援のアライン・ランサイ中学校と合わせて2校で行った。
- ③ 教育環境の改善支援では中学校2校にはコンパス等の教師用教具・理科実験器具、小学校には各教科の掛け図・算数セット・地球儀などの支援をして、使い方を指導した。

このために年間7回カンボジアに指導と調査に行った。

これらの成果はカンボジア国内での活動が円滑に進むように昨年度から行ってきた、カンボジアの法律に従って外務省及び教育省に INGO 登録・州および郡・学校と理解と協力を得る話し合いを重ね、基盤作りをした上で支援活動を始めた結果である。

日本国内における支援者募集も、カンボジアでの支援活動の実際をパンフレットやインターネット、「にょにゅむ通信」等で報告し、宣伝活動をした。

2018 年度(平成 30 年度)・SSFC がカンボジアで行った支援活動

I. 就学支援事業

カンボジアでは中学3年までが義務教育であるが、地方の州では中学3年で卒

業できる生徒は、中学1年入学時生徒の半数に減ってしまう。(住田の16年間の調査結果)その原因の多くは貧困であり、「貧困のために中途退学をして、働かざるを得ない現状」がある。

退学する生徒の中には、成績もよく能力もあり勉学意欲がある生徒も少なくない。中途退学した生徒のうち、男子はバタンバン州やタイへ農作業の出稼ぎに行き、女子はプノンペン近郊の縫製工場で働くことが多い。そのような生徒に就学支援をした。

(1) 奨学金給付

① アライン・ランサイ中学校とフンセン・スワイトム高校生徒に継続支援を決定した。

2017年度奨学金給付生徒5人の内4人に2018年10月、本人と面接し家庭訪問・状況調査をして継続支援を決定した。

② 継続支援・奨学金給付生徒4人の名前

○アライン・ランサイ中学校生徒1人

・ソン・ジュン (中3・女・18才)

○フンセン・スワイトム高校生徒3人

・ピツ・ウィ (高1・女・18才)

・ラワ・ディ (高2・女・18才)

・ニューン・ナイ(高2・女・17才)

*ソウ・クディ *結婚したため高校退学・奨学金給付中止

③ 新規支援・奨学金給付生徒12人

アライン・ランサイ中学校生徒4人・スレイ・ビボケイ中学校生徒8人

2018年8月に担任と校長の推薦を得て9・10月に本人に面接し家庭状況調査を経てSSFC定例会で決定した。奨学金給付は、カンボジアの新学期である11月から始めた。

○アライン・ランサイ中学校4人

・ピップサ・アエン(中3・女・15才)

成績は2年生で1番(校長が成績表を見て証明する)。父は家を出て帰ってこない(母親の話)。母はエイズに感染しているので、欧米の支援団体から薬をもらっている(本人の話)。市場で魚や野菜を仕入れて、村人に売っている。1日の売上10,000~20,000リエル。利益は半分以下だが奨学金給付で受けるお米2人分(高校1年の姉、ピップ・ウィと)30Kgと20\$もらう現金で生活していける。高校1年の姉、ピップ・ウィもSSFCの奨学金給付を受けて高校に通っている。

本人は家の収入が少ないので高校に行けないと悩んでいたが、担任の先

生・校長の推薦、SSFC の調査により奨学金給付が決定した。安心して学校に行けると喜んでいる。

・カウ・ティ(中 3・女・15 才)

成績は学級43人中で8番。父母は健在。父親は農業をして雨季に魚を捕って生活費を稼いでいる。魚が多く捕れた時で 2 万～3 万リエル。母は腰が悪くて働けない。父親が自分の田で米を作り、8 ヶ月は食べられる米がとれる。父親は酒を飲むとティに学校を辞めて働けと言うが、母親が学校に行かせてくれる。

母は奨学金を給付されたから、父親を説得してティを学校に行かせると SSFC に約束した。3 人兄弟の 3 番目。兄2人は中学1年で学校を辞めて溶接工をしているが、長男は病弱で働けない日が多い。ティは大学を出て中学校の先生になる夢を持っている。

・パーワン・シン(中 1・男・11 才)

父親は6年前に死亡、母は 4 年前に再婚して家を出た。シンは 8 才の時から2人の妹とお祖母さんに育てられている。祖母は68才で収入は無い。生活費は祖母の3人の子どもから月に 20 \$ くらい送ってもらっている。小学校6年の成績は学級で16番。祖母は勉強を努力させると約束した。成績は良くはないが両親が居ないことと生活が苦しいことを考慮して奨学金を給付することにした。本人の今後の努力に期待する。

・チューン・ソ・ポワン(中1・女・12才)

父親は他人の田を任されて米を1年間 200Kg 貰う。別に工事場の人夫をして働き月 150 \$ くらい稼ぐので、食べていける。母は心臓が悪いので働けない。月に5回病院に行く。父母は学校に行けなかったので、ポワンには勉強させたいと願っている。父母ともに教育に熱心。ポワンの小学校 6 年の成績は 41 人中 6 番。父・母・ポワンの3人で生活している。家には父親が仕事に行くときに使うバイクを1台持っている。父母が教育に熱心で、父親が真面目に働いている事。母親の病気と薬代にお金がかかること。父親の収入を考慮して、奨学金を給付した。

○スレイ・ビボケイ中学校 8 人

近頃では見られなくなった、電気も無く粗末なヤシの葉の家に驚きましたが「子どもには勉強をさせたい！」という気持ちがひしひしと伝わってきました。

・リー・ソック(中3・15 才・女)

母はソックが3才の時病気で亡くなった。父親は再婚し、新しい母とウッドミンチェイ州に出稼ぎに行き家に戻ってこない。祖母と小学校6年の妹と私の3人で祖母の家で暮らしている。祖母の収入は無く、父母がたまに米を買って送ってくれる。生活が出来ないのでソックが田の手伝いをして月に 12\$くらい稼いでご飯を食べている。結婚した姉が時々来てお金を 2~3\$くれる。

勉強を頑張っている所以成績は良い。3年生 63 人中2番。「勉強がしたい。高校にも行きたい。」と本人は言う。

・コーン・テム(中2・15 才・女)

父親:自称 81 才無職、母:継母 50 才 2Ha の田の世話をしている。3人兄妹。兄2人は家を出て働いている。3人家族で1年間食べられる米がとれる。テムは日曜日に他の農家の牛の世話をして、1ヶ月 15\$稼いで学用品などを買う。1日 2 時間くらい勉強している。成績は学級で 48 人中 2~3 番。物理・科学・英語が好きで、将来は物理の先生になりたい夢を持っている。質問にもはきはき答えて利発そう。

・スーン・ダン(中1・12 才・男)

父親:田畑を持っていないので、農家の手伝いをして1年間に米を 210Kg もらう。農作業の無い時は建設工事場で働き1日5\$、月に 70\$くらい稼ぐ。夫婦で働き者。父親は学校に行ったことが無いので読み書きができない。母親は小学校3年で学校を辞めた。4人の子どもには教育を受けさせたいと思っている。家には電気が引いてないので、ダンが家に帰ったらすぐに1~2時間勉強して、田畑の仕事を手伝う。

・ピースレイ・トゥ(中1・13 才・女)

父は病死、母は 62 才。農家から頼まれた牛の世話をしているが、まだ収入は無い。5人兄妹の5番目。兄妹の送金が月 12\$~20\$あり、その金で生活している。ヤシの葉で作った家に住んでいる。母は兄妹には学校に行かせられなかった所以、トゥには教育を受けさせたい。しかしお金が無いので諦めていた。SSFC から奨学金がもらえて感謝している。母が質問応えられない時はトゥが答える。利発そうな生徒である。将来は学校の先生になりたい夢を持つ

ている。

・ジェット・ピー(中3・18才・男)

両親は健在で農業に生を出す働き者。働いて貯めたお金で少しずつ田を買い、1haの田を持っている。父親は学校に行けなかったので、読み書きができない。母親は小学校を4年で辞めて働いた。姉はシエムリアップの専門学校に通っている。ピーは通っていた小学校の先生が自習ばかりで勉強を教えられないので、4年の時に自分で学校を変えた。その学校で2年生から勉強をやり直した。家では毎日1時間以上勉強している。中学1年からずーと学年1番の成績を取っている。性格は積極的で努力家礼儀正しく誰からも好かれている。先生全員が推薦した。奨学金をもらったので両親も喜び、ピーも更に努力することを約束した。

・ウーン・ソペアット(中2・15才・女)

農業をしている両親と3人姉妹の5人家族。少しずつ買い足した2haの田を持っている。5人家族で1年間食べられる。姉は縫製工場で働き、たまに仕送りしてくれる。ソペアット畑仕事を手伝う。小2の妹の面倒を見る。毎日1時間は家で勉強する。成績は49人中6番。

・コン・サイ(中2・13才・女)

田を1ha持っている。両親は無学なので、子どもの教育に熱心。長女・次女は師範学校に通っている。3女は高校3年生、私、妹は小学校6年、なので生活は苦しい。農業の他に父親は工事場で働き、母親もヤシ・ジュースを売っている。サイは毎日1時間家で勉強する。成績は49人中6番。

・ケツ・ヌーン(中1・15才・女)

父親は病死、病名は不明。母親は出稼ぎに行っている所以祖母と暮らしている。祖母は働けないので、子どもたちの仕送りで暮らしている。ヌーンの兄弟はいない。毎日家で勉強を1時間以上している。成績は45人中8番。

④ 奨学金の給付対象中学生・高校生の条件

- ・成績が優秀で人柄が良く、貧困のために中途退学せざるを得ない生徒
- ・成績は各学級で5番以内、又はそれに準ずる生徒
- ・生徒欠席日数が少ないこと
- ・エイズや結核・肝炎など長期治療を要する病気を持っておらず、健康であること

と

・上記の内容を含め、校長・担任教師が推薦した生徒

⑤ 給付を受ける生徒の給付期間と選定条件

○給付期間は、1年毎に更新するが、原則として中学3年間支援する。

高校進学に際しての給付は SSFC の定例会で決定する

○真面目で人柄も成績も良く、校長や職員の推薦を受けた生徒

- ・中間・期末試験の成績が原則として学級で5番以内であること
- ・欠席日数が少ないこと(ずる休み・遅刻がないこと)

⑥ 奨学金給付内容(物品を含む)

○中学生の1年間の給付内容

◇物品の給付

- ・制服上着2着スカート1着 ・ノート(200P)15冊 ・ボールペン青7本、赤2本 ・コンパス ・物差し ・三角定規1組 ・その他必要文房具
- ・米 15Kg/月×12月=180Kg ・サンダル2足

◇支援開始時 ・自転車1台 ・鞆1個 ・その他必要物品

◇お金の給付

- ・補習代: $5\$ / 1 \text{ 教科} \cdot 1 \text{ ヶ月} \times 4 \text{ 科目} \times 12 \text{ 月} = 240\$$
- ・生活費: $10\$ \times 9 \text{ ヶ月} = 90\$$ (授業のある月だけ支給する)

○高校生の1年間の給付内容

SSFC の奨学金給付を受けた中学生が、高校に進学する場合、奨学金の給付を SSFC の理事会で決定する。

◇物品の給付

- ・制服上着2着スカート1着 ・ノート(200P)20冊 ・ボールペン青10本、赤3本 ・マーカー2組 ・その他必要文房具
- ・米 15Kg/月×12ヶ月=180Kg ・運動靴2足

◇支援開始時 ・自転車1台 ・鞆1個 ・その他必要物品

◇お金の給付

- ・補習代: $5\$ / 1 \text{ 教科} \cdot 1 \text{ ヶ月} \times 12 \text{ 月} = 300\$$
- ・教科書代 40\$
- ・生活費 $10\$ \times 9 \text{ ヶ月} = 90\$$ (授業のある月だけ支給する)

⑦ 1年間1人当たりの必要金額概算

(2018年度も商店の好意で昨年の値段で購入している)

・中学生:515\$

・高校生:618\$

Ⅱ. 教育環境の改善支援

2-1 先生の指導力向上の支援・成果1

(1) 指導力向上支援の年間計画を次のように立て、実践した

SSFC の「生徒によくわかる授業の仕方」は第1回目から最終回の授業発表会まで「全7回で完結するプログラム」を立てて実践した。

指導内容と日程は以下の通り。

第1回 2017年10月

- ・学校調査及び SSFC の説明 ①教育省・州教育局で調査②SSFC の活動説明③授業参観・研究会

第2回 2017年11月

- ・SSFC の目指す授業の理解①プログラムの進め方の説明②先生へのアンケート③授業参観・研究会
- ・模範授業の開催①先生を生徒にして授業を見せる②研究会(指導案・指導力向上4項目の手引書配布)

第3回 2018年1月

- ・模範授業の開催①先生も参加して、生徒に1年生に授業を実施②研究会で説明、質疑応答
(指導案・4項目の資料配布)

第4回 2018年2月

- ・現地の先生の授業実践①7人の先生の授業参観②研究会(授業の流れと指導力向上4項目を中心にして)

第5回 2018年4月

- ・現地の先生の授業実践①7人の先生の授業参観②研究会(授業の流れと指導力向上4項目を中心にして)

第6回 2018年6月

- ・現地の先生の授業実践の習熟①7人の先生の授業参観②研究会(授業の流れと指導力向上4項目を中心にして)③研究発表会の準備

第7回 2018年7月

- ・研究発表会①授業発表会(午前中)②研究発表内容の発表全体会③教科毎の研究発表

(2) SFC は 3 校の先生に「指導力向上のための指導」を以下の内容で行った。

■ 研究テーマ「生徒によく分かる授業の仕方」

○研究テーマ設定の理由

先生の指導力の向上が急務である。以下のカンボジアの教育の現状から、上記の研究テーマを設定した。

- ① 師範学校を卒業した先生でも、諸々の事情により「生徒によくわかる授業」「生徒の学力を向上させ、身に着けさせる授業」を実践している先生は、ほとんどいないと言っても過言ではない。
- ② 学校の授業は自習が多い。先生は授業の始めに、口頭又は黒板に課題を書いて「○ページを読んで、分かったことをノートに書きなさい。」と生徒に指示し、自習をさせる。先生が解答したり教える事は余りない。
- ③ 校長の許可を得て授業参観をしていると、先生に教える内容の知識が少なく教えることが直ぐに無くなってしまい、先生もボーとしていることが多い。
- ④ その原因としては授業前に●教えることを勉強していない●1時間の授業計画を立てていない●生徒に分かるように教える意欲がない、等があげられる。
- ⑤ カンボジアの教育省は、外国の支援を得て、先生が授業を進めるための先生用の指導教科書「1 時間の授業の流れ(始めに出席をとるから始まり・1 時間毎に、授業で教える内容が書いてある)」を全教科作って、学校に配布した(作成年度は 2010 年頃・チャップ・ソポン部長の記憶による)。それすら読まずに授業に臨む先生が多い。
- ⑥ 生徒に教えている先生の声が聞こえる教室もある。そこでは多くの生徒が授業に集中している。グループ学習を授業に取り入れている先生もいる。課題を与えて、解答を黒板に書かせているが、資料は教科書しかないの、解答は1つである。図鑑や掛け図等、資料がないので、資料を元に意見を出し合い討論し、生徒同士高め合い、考える力を養う事が出来ない。
- ⑦ 授業のまとめに、今日の授業で教えたことを覚えさせる事をしていない。終業の鐘が鳴ると授業は終わりである。宿題を出す先生もいるが、答え合わせもしないので、多くの生徒はやってこない。

(上記はカンボジア外務省 INGO 担当部長・元中学校校長・教師の話と 18 年間、住田がカンボジアの小中学校を調査に行き、実際に見た授業から)

◎カンボジアの先生に「生徒によくわかる授業の仕方」と「先生としての意識を持つこと」を教え、日々の授業で実践する事が急務である。

(3) 指導力向上の年間計画作成に当たっての考え方

◎カンボジアの先生の指導力の向上のために、{生徒によくわかる授業の仕方・4項目}を理解させること。SSFC が指導する1年間に、全員の先生が、理解した4項目を元に授業実践をして、放課後の研究会で話し合い指導を受ければ、更に理解が深まり、生徒によくわかる授業ができる。

◎SSFC の住田が模範授業をして4項目を実践指導すれば、先生の指導力は向上し身に着くと考える。その結果、カンボジアの先生は、「生徒によくわかる授業が出来、日々生徒の学力は定着し、年間を通して高い学力を身に付けさせることが出来る」と考えて年間計画を作成した。

◎「生徒によくわかる授業の仕方・4項目」とは

- 1項目:授業を行うに当たって、「事前の勉強や準備」をどのようにしたか
- 2項目:授業の初めに「生徒に興味・関心を持たせる工夫」をどのようにしたか
- 3項目:授業の中で「生徒に考える力を身に付ける指導」をどのように取り入れたか
- 4項目:授業の終わりに「生徒の理解度の評価」をどのように取り入れたか

(4) 研究の成果

■2018年7月6日(金)アライン・ランサイ中学校で授業研究発表会を開催しました。

◎ 参加者

シェムリアップ州・サイ・チャ・スホン教育長、
バクコン郡ヴィクカ・アンシー教育長・郡教育局職員等8人
バクコン郡内 13 中学校の先生 60 人

◎ ランサイ中学の先生全員が朝から事業を公開した

- ①プローン・チャイ先生 理科「磁石が作る磁力」実験で具体的に教えた。
- ②トリー・チャンラー先生 国語「カンボジアの詩」
- ③ラム・ヤー先生 国語「カンボジアの踊り」
- ④シェット・ティ先生 国語「物語 山の火事」
- ⑤ニューン・ソピアップ先生 家庭科「刺繍作り」
- ⑥パーン・ソップニー先生 理科「たばこの害」
- ⑦スーン・シン先生 英語「時刻の言い方」
- ⑧パエン・ソクンティアリ先生 数学「立体図形の体積の求め方」
- ⑨プーン・ラッター先生 国語「カンボジア語の文法」
- ⑩マイ・ポン先生 数学「分数」
- ⑪ヴァイ・ピサイ先生 英語「単語の発音と書き方」
- ⑫ノッ・サバー先生 数学「確率」

⑬イン・ビスナー先生 歴史「カンボジアの民主主義」

◎1日の時程

- ① 受付開始:7時30分・出席名簿記入・出席個人表記入・昼食券配布
- ② 公開授業:8~9時・9~10時・10~11時の3時間の内1時間、校長を除く先生16人全員が授業を公開した。
- ③ 全体研究会:11~12時・校長挨拶・州教育長挨拶・SSFCの指導内容の説明
ランサイ中研究内容の説明(副校長)・実際の授業について説明
- ④ 昼食:12~12:40(SSFCが80人分の弁当を提供)
- ⑤ 教科ごとの分科会:12:40~15:20 参加者全員と授業公開した先生が専門の教科ごとに分かれて「生徒によくわかる授業の仕方」について話し合った。授業者が授業の説明をして、参加した先生が質問をした。司会はランサイ中学の先生がした。
- ⑥ 解散:参加者全員にガソリン代3ドルを支給した。
- ⑦ ランサイ中先生との反省会:○教科ごとの分科会の内容報告○ご苦労さん会

■ 支援を始めるためのカンボジア政府教育省と教育局州への手続き

- ①カンボジア政府教育省・教育省大臣、シェムリアップ州・コンポンチュナン州教育長・教育局、郡教育長・教育局等と面談して、SSFCの指導力向上支援について説明し理解と協力を得た。
ハン・チュンナロン教育大臣からは「SSFCが行っている『先生の指導力向上支援』は、カンボジアの教育に今最も大事なことだ。教育省でも州ごとに推進校を決めてやっているが、指導者がいないのでなかなか上手くいかない。何でも協力する。是非やってほしい。」と激励された。
- ②2018年10月カンボジア教育省・INGO担当チャップ・ソポン部長と面談し支援する州について相談した。シェムリアップ州は昨年からの継続、新たに予定しているコンポンチュナン州にも同意を得た。
教育大臣がコンポンチュナン州教育長に電話をしてくれたので、後の交渉が全てスムーズに進んだ。

■ シェムリアップ州での手続き

- 2018年9月から教育支援に行くたびにシェムリアップ州教育長・バクコン郡教育長に支援の細部にわたって報告し了解と協力を得た。
- ① 2018年10月スレイ・ビボケイ中学校を訪問して、SSFCの支援内容を校長

- と副校長・全ての先生に説明して、研究を進めることの賛同を得た。
- ②シエムリアップ州ではアライン・ランサイ中学校を継続支援し、新たにスレイ・ビボケイ中学校に支援を開始した。

■ コンポンチュナン州での手続き

- ①コンポンチュナン州教育長・チューキリー郡教育長に「先生の指導力向上支援」の内容を説明して、了解と協力を得た。
- ②2018 年 10 月ボットロン小学校を訪問して、SSFC の支援内容を校長と副校長・全ての先生に説明して、研究を進めることの賛同を得た。
- ③コンポンチュナン州ではボットロン小学校に支援を開始した。

■ 支援を決めた理由

- ・校長が何事においても意欲的で、学校経営がよく、先生を掌握している。
- ・先生の年齢が 20 代・30 代前半人と若く、新しい事に意欲的に取り組む。
- ・校長・副校長が先生に信頼がありリーダーとして頼りにされている。
- ・先生を掌握している。
- ・先生全員で話し合い、SSFC の指導力向上支援を受けることを決定した。

2-2 指導環境の整備の支援

(1)教材教具の支援

2018 年度はランサイ中学校の先生の要望により以下の教材教具を配賦した。

- ① 数学備品:先生用のコンパス2個、三角定規2組、分度器2個
- ② 家庭科備品:生徒が使う手芸教材 45 人分。刺繍の枠、刺繍糸2色と針
- ③ 理科実験道具:各種のフラスコ・ビーカー・試験管・試験管架・試験管立て
- ・ロート・三脚・石綿金網・三角金網・アルコールランプ・U 字型と棒型磁石
 - ・方位磁石等
- ◎実験道具の使い方を実技を通して指導した
- ④ 社会科備品:地球儀2個

(2) 理科室・図書室の設置、校舎建設等

2018 年度は要望が無いため、支援は行わなかった。

Ⅲ. 広報・募金について

- (1) 広報: SSFC の活動パンフレットを継続して作成し、PR のために配布した。
- (2) ホームページの継続して作成し、公開した。
- (3) SSFC の事業報告「よにゆむ通信」を毎月発行し、支援者に配った。
また広報活動に使った。
- (4) 企業や個人を訪問して、募金活動をした。

平成30年度事業報告の附属明細書

平成30年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

令和元年6月

公益社団法人 Sumita Scholarship Foundation, Cambodia